

～統合実習を振り返って～

R2年12/7～12/22に予定しておりました統合実習は、COVID-19対応のため12/16より学内実習に切り替える事となりました。12/15まで、大変な状況の中で、夜間を含めた実習を受け入れていただき大変感謝しています。中止となった日から学内演習(複数受け持ち、夜間想定、突発事案など)を行うとともに、「医療安全及び危機管理について」「安全・倫理的配慮に基づいた看護」をテーマに先行研究を調べ、カンファレンスをしました。急遽、学内実習に切り替える事になりましたが、学生の学びたいという意欲と教師の学ばせたいという熱意により、多くの学びを得る事ができました。これらの学びも今までの臨地での経験が生かされたものと感じています。幾つか学生の学びを紹介します。



「演習前に業務カンファレンスを行っていたが、忙しさのピークが人によって違い、チームで思うように動けなかった。」「困っている時や助けてほしい時に声を出す事は意外に難しい。困っている人にはこちらから声をかける事が大切。」「抗癌剤と抗生剤が重なった時、抗癌剤を仲間に委譲し注意を受けた。何を委譲すべきか考えないといけない。」「忙しい中で『そばにいてほしい』と言われた時、どんな事ならできるのか折り合いをつけながら考える事が必要だった。」「臨地での複数受け持ちの実習は叶いませんでした、多くの学びが得られたようでうれしく思います。

4月からは新人看護師として配属されます。今後ともご指導宜しくお願いいたします。



統合領域担当 木下 まゆみ